

滋賀県文化情報

『えんむすび』

●彦根城の世界遺産登録を応援しよう！

令和6年の彦根城の世界遺産登録実現を目標に、滋賀県と彦根市では、各種の事業を協働して実施することになりました。世界遺産の登録実現のためには、市民・県民の皆様のご理解とご支援が必要です。

市民・県民の皆様の応援組織としては、「彦根城世界遺産登録意見交換・応援一〇〇人委員会」があります。入会していただく、世界遺産に関するセミナーや勉強会のご案内など、彦根城の各種情報をお知らせいたします。入会は無料です。

詳しくは、彦根市歴史まちづくり部文化財課彦根城世界遺産登録推進室（0749



・26・5834）もしくは、彦根市のホームページをご覧ください。
<http://www.city.hikone.lg.jp/kanko/rekis/hj/6/4/4971.html>

●小冊子「近江路」を発行しました！

滋賀県が実施

する「近江文化発見・発信事業」の一環として、小冊子「近江路」を発行しました。この事業は作家司馬遼太郎氏の著書を基にして近江の文化の魅力を発見し発信するものです。2019年度は成安造形大学の学生によって、司馬遼太郎氏の『街道をゆく』24巻「近江散歩」に登場する場所の中で、湖東・湖北エリアに着目しフィールドワーク、ワークショップを行いました。そこで見つけた近江の魅力をまとめたのが「近江路」です。この小冊子は、滋賀県文化芸術振興課等で配布しておりますので気軽に手に取ってみてください。



●アール・ブリュットネットワークを存じますか？

アール・ブリュットは「加工されていない生（き）のままの芸術」という意味のフランス語ですが、全国各地で作品が発見され、多くの展覧会が開かれるようになっていきます。

日本において、アール・ブリュット作品の多くは、障害者福祉の現場で生み出されています。また、無名の人の作品が、審美眼を持つ人に探し出されたり、全くの偶然で見出されたりしてきました。誰かに見せる目的でつくったわけではなく、静かに存在する作品たち。世に出て行くためには、多くの関わりを必要としています。

アール・ブリュットネットワークは、アール・ブリュットに携わる美術、福祉、医療、研究機関、行政等各分野の関係者間の交流を促進し、情報発信等を行うことにより、アール・ブリュットを支える環境全体の底上げを図るため、2013年2月に発足しました。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

（会費無料）

詳しくはホームページ「アール・ブリュットネットワークのご案内」をご覧ください。
<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunkasports/bunkageizyutsu/10098.html>

Made in Shiga

「身近に感じる「美」の世界

BIWAKOJINナーJANONO

「森羅万象」COSMIC DANCE

NDPO法人DIBERY FIELD 常務理事 中田 洋子

BIWAKOビエンナーレが産声をあげたのは、海外生活がちょうど20年になった21世紀の幕開けの年であった。そこからさらに20年、今回は、海外7か国より招聘する作家約20名、日本人作家約50名が参加する予定だ。世界は新型コロナウイルスの脅威にさらされ、先の見えない状況ではあるが、これまでの主な開催地である近江八幡に加え彦根での開催も決まってい

県内で実施されている「美の滋賀」づくりに関する取り組みを紹介します。

る。会場は、町に点在する主に江戸明治期の歴史ある建物である。多くはその役割を終え、長く住み手を失い淋しい佇まいののだが、清掃、整備し、作品を展示するとその輝きを取り戻す。

BIWAKOビエンナーレを始めるきっかけは、1995年から住み始めたフランスの、古い町並みをそのまま残し伝統文化を守るという強い姿勢に深い感銘を覚えたことにある。私自身を育んでくれた滋賀の地も豊かな歴史と文化、自然に恵まれた美しい風土がある。それが失われていくことに危惧を覚え、アートでそ

の美を取り戻せないかと始めたのがBIWAKOビエンナーレである。また21世紀という新時代が、有史以来繰り返してきた争いに終止符を打ち芸術文化を愛する平和な世界へと転換していくことへの願いも込めていた。実際この20年、テクノロジーの発達とともに世界は大きく変化してきた。しかし、いまだ争いは収まることなく、人間中心の悪しき社会構造は地球に大きな負荷をかけ続けている。

今、世界を襲うこととなった新型コロナウイルスも地球のバランスのとれた生態系を人類が破壊してきた結果に他ならない。人類にとつては脅威だが、外出規制により地球は美しい姿を取り戻しているという事実にも目を向けるべきだろう。



江頭誠「フランクセットが響く
でいっばい」BIWAKO
ビエンナーレ2018



Thomas Fereinstain トーマス・フワイエルツユタイン
「PSYCHOPROSA」ニルハ
ンナーレ2018



中田悠「a bag containing
something」BIWAKO
ビエンナーレ2018



南野馨「untitled 1700
4」BIWAKOJINナー
レ2018

奇しくも今回のテーマは「森羅万象」COSMIC DANCE。地球に存在するありとあらゆるものは変化と生成の中にあり、なにひとつ、一瞬たりとも静止するということはない。すべての存在は、無論私たち人類自身も含め、宇宙の一員であり、ともにこの地球を舞台に踊るダンスの共演者なのだ。

BIWAKOビエンナーレ2020が、今回のパンデミックで不安や恐怖にさいなまれた人々の心を癒し希望ある未来を思い描く礎となるならそれに勝る喜びはない。

今秋、出展予定の作家たち

アートのみかた

— 滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに —



塔本シスコ「自由の女神達」1994年 油彩・カンヴァス

縦144・0×横110・6cm

滋賀県立近代美術館蔵

●丹念に描いた鮮やかな世界

1994年に八日市文化芸術会館にて開催された、塔本シスコの大規模個展にまつわる作品です。エネルギー感溢れる大画面の左側には、感謝の意を込め、展覧会を担当した二人の学芸員が描かれています。画面右側には、画中画として描かれた展覧会のポスターを背に今にも笑い声が聞こえてきそうな楽しい人々。輪の中心には眼鏡をかけたシスコが微笑んでいます。ポスターには娘の和子が嫁いだ鹿児島の桜島と着物の洗張を描いた

滋賀県立近代美術館 星野 志穂

作品が使われました。

作者の塔本シスコ(1913~2005)が絵を描き始めたのは、50歳を過ぎてから。画家である息子の塔本賢一の画材を用いて制作を始め、独学の素朴派画家として評価を受けるようになります。愛する家族や花鳥風月、子供の頃の思い出などを、シスコの目に映るままの鮮やかさで丹念に描き、そのとめどなくあふれる創作意欲は92歳で生涯を閉じるまで朽ちることはありませんでした。

オペラ日和

●オペラ指揮者セミナーで愉しむオペラ

びわ湖ホール 総括プロデューサー 舘脇 昭

びわ湖ホールでは、新型コロナウィルスの影響を受けて、今年2月から7月迄に、大規模なオペラ公演、音楽祭や演奏会等、主だったものだけでも60以上の公演が中止・延期となりました。その中であって3月7日・8日のプロデュースオペラ《神々の黄昏》は、4年間に亘って取り組んできたワーグナーの「ニーベルングの指環」(4部作)の完結編であり、2か月間稽古を重ね、ほぼ完璧なレベルにまで仕上がっていたことから、無観客で上演。この模様をインターネットで無料ライブ配信し、延べ40万人以上の方に視聴いただきました。

オペラには、音楽、芝居、舞踊、美術といった舞台芸術のほぼ全ての要素が含まれ、総合芸術と位置づけられていることから今後も多くの上演を行いたいと考えていますが、今年11月の《セビリアの理髪師》、イタリヤ・パリー歌劇場《アイーダ》の二つの大型公演も相次いで中止を発表。これにより今年度に予定していたオペラ7演目18公演中、5演目12公演が中止という事態に見舞われたものの、8月には恒例の「オペラ指揮者セミナー」を開催します。オペラ《ヘンゼルとグレーテル》を題材に、芸術監督の沼尻竜典が若手指揮者を直接指導します。普段は見えないオーケストラピット内部を大ホールの舞台上に再現。指揮者

がフルオーケストラとプロの歌手とどのように対峙するか、お客様も一緒に学べる大変興味深いセミナーです。また、来年1月にはモーツァルト《魔笛》、3月にはワーグナー《ローエングリン》の上演を予定していますので、どうぞご期待ください。



昨年の「オペラ指揮者セミナー」の様子。舞台上にオーケストラピットと舞台の位置関係を再現、実践的なセミナーを展開しています。

オペラ指揮者セミナーⅥ 《ヘンゼルとグレーテル》 指揮法

日時 8月4日(火)～6日(木)
会場 びわ湖ホール大ホール
講師 沼尻竜典
歌手 びわ湖ホール
声楽アンサンブル

管弦楽 大阪交響楽団

チケット

一般5,000円～2,000円、

30歳以下割引有

(全席自由席/座席数限定/

7月26日チケット発売)

●劇場の取り組み

緊急事態宣言が解除となり6月1日からホールが開館したことを受け、びわ湖ホール専属の「声楽アンサンブル」は、県内の小学校の校歌を録音し小学校にプレゼントするという企画を始めました。県内230校余りの全小学校に希望を募ります。プロの声楽家による圧巻の演奏を子ども達に聴いていただきたいです。また、日本の歌やオペラの名曲をホール内から見る美しい景色と共に演奏を収録し、インターネットで無料配信していきます。多くの方にお楽しみいただけるよう、現在収録を進めていますので、こちらもご期待ください。



びわ湖ホール声楽アンサンブル